

令和5年度
事業報告書

I	法人総括	1
II	介護保険事業	
1	特別養護老人ホームわがの里	6
2	わがの里デイサービスセンター	17
3	わがの里在宅介護支援センター	21
4	グループホームわがの里	25
III	わがの里保育園	28

社会福祉法人 和江会

令和5年度社会福祉法人和江会事業報告

I 法人総括

1 事業概要

令和5年度は、事業計画において、新型コロナウイルス感染症の継続や突発的な自然災害の発生下でもサービスを安定的、継続的に提供し、利用者ニーズに応じながら安全・安心な施設運営を実施することを重点事項に掲げ、取り組みました。

新型コロナウイルスについては、5月の感染法上の5類移行後も、法人施設で利用者・職員に感染がありましたが、感染対策を徹底して継続してきたことや、過去の経験を活かした感染対応により感染拡大を抑制して影響を少なくでき、前年度のような大幅な入所・利用の制限を回避し、受入れの回復につなげることができました。

また、感染症及び災害に備えた業務継続計画（BCP）の策定を行い、この計画の職員間での共有や必要な訓練を開始しており、今後も継続していくこととしています。

なお、ご家族・地域の施設事業への参加については、全面的な再開には至りませんでした。地域交流事業として「すずカフェ」の再開や保育園事業での保護者参加制限の解除を行い、交流が図られました。

このほか、利用動向に応じた施設運営とするため、デイサービスの営業日を週5日へ変更しましたが、1日当たりの利用者数は微増にとどまり、利用総数は前年度より減となりました。

こうした中、令和5年度の経営状況は、事業活動計算書決算額が、介護保険事業でマイナスとなり、保育園事業ではプラスとなりましたが、介護保険事業のマイナス額が縮減し、法人全体では、前年度マイナスから2年ぶりにプラスとなりました。

介護保険事業のマイナスは、特別養護老人ホーム事業で短期入所者数の回復等により前年度のマイナスからプラスとなったものの、デイサービス事業で利用総数が減になったことでマイナスとなったことが要因であります。

保育園事業については、利用率が前年度を若干下回りましたが、市からの委託費収入が人件費に係る加算の増により前年度より増加しました。これに伴う人件費支出の増があったものの、収支全体ではプラスとなりました。

2 各サービスの利用状況

① 特別養護老人ホーム事業は、長期利用で、看取り対応となる方が多く退所者が過去最多の24人（前年度17人）となり、入所待機者との速やかな調整を図りましたが、利用率は目標より少し低い97.8%（前年度98%）となりました。

また、短期利用については、前年度のようなクラスター発生はなく、入所者数は増加したものの、入所予定者のコロナウイルス感染や入院などによるキャンセルが相次ぎ、目標95%に対して86.6%（前年度73.2%）となりました。

- ② デイサービス事業は、営業を週5日制に変更して1日平均利用者30人を目標に取り組み、23.8人と前年度実績(23.4人)を若干上回ったものの、利用総数は6,018人で前年度より1,194人の減となりました。営業の週1日減に加え、施設入所移行による利用中止が多くありました。このため、希望サービスに関するアンケート調査を行い、この結果をもとにサービス内容を見直し、取り組むこととしています。
- ③ 在宅介護支援センター事業については、居宅介護支援(要介護)が1,345件(前年度1,461件)で、予防・総合計画(要支援)は434件(前年度480件)となり前年を下回りましたが、目標件数を達成し、事業収益も黒字を確保できました。
- ④ グループホーム事業は、施設内で一時、入所者、職員にコロナ感染者が発生しましたが、幸い重症化には至りませんでした。入退所は6名で、利用率は前年度と同程度の99.3%となり、目標の98%を達成しました。
- ⑤ 保育園事業については、定員140人に対し月平均143.3人の受入れで、利用率は前年度を若干下回りました。市外への引越しにより退園した児童があり、在籍児童数が年度当初と比べ、年度末で減となりました。

[各施設サービスの実績]

サービス区分	定員等	年間最大利用者数	目標利用率	実績	実績利用率等	参考R4利用率
特養長期入所	50名	18,300人	98%	17,906人	97.8%	98.0%
特養短期入所	10名	3,660人	95%	3,168人	86.6%	73.2%
デイサービスセンター	要介護	13,230人	24.0人/日	4,645人	18.4人/日	18.7人/日
	予防・障害		6.0人/日	1,373人	5.4人/日	4.7人/日
	計35人/日		30.0人/日	6,018人	23.8人/日	23.4人/日
在宅介護支援センター	要介護140件/月	1,680件	120件/月	1,345件	112.1件/月	121.8件/月
	予防総合40件/月	480件	28件/月	434件	36.2件/月	40.0件/月
	計180件/月	2,160件	148件/月	1,779件	148.3件/月	161.8件/月
グループホーム	9名	3,294人	98%	3,272人	99.3%	99.4%
保育園	140名	41,020人	100%	42,002人	102.4%	104.2%

3 人材確保・育成の取組み

介護保険事業における無資格者の研修義務付け対応や、更なる資格取得を目指す意欲ある職員を対象に、職員資格取得支援制度を継続し、養成を図りました。なお、専門研修や福祉団体が行う研修に、新型コロナウイルス感染症以降に定着してきたオンライン形式を積極的に活用し、研修への参加を行いました。

また、職員の退職に対応し、即戦力となる有資格職員を募集しても応募がない状況が継続していたことから、民間職業紹介事業者を活用し、介護福祉士、看護師の採用につなげることができました。

4 地域交流・地域貢献活動の取組み

介護の相談会「すずカフェ」を4年ぶりに再開し、参加者から好評を得ました。

また、保育園では、行事への保護者の参加制限をなくすとともに、園児が地区敬老会、農業祭、北上市福祉大会に参加して踊りを披露するなど、地域交流を行いました。

これら以外の家族や地域の方々が交流できる行事については、コロナの感染状況により、やむを得ず中止としました。

なお、地域清掃活動を年2回実施し、職員50人が参加してわがの里周辺のゴミ拾い清掃を行いました。

5 計画的な施設整備の推進

36年経過した特養施設、26年となるデイサービス、22年となる保育園の各施設・設備について、劣化調査による施設改修・機器更新計画に基づき、計画的に修繕等を進めました。

施設・設備整備状況（工事請負100万円以上、業務委託・物品購入等50万円以上）

〔介護保険拠点区分〕

施設	完了日等	件名	金額	契約相手
特養施設	7月4日	エアコン更新工事(4台)	2,513,830円	(有)岩手北菱サービス
	7月28日	温冷配膳車更新	2,640,000円	ホシザキ東北(株) 北上営業所
	8月22日	特殊浴槽更新	7,568,000円	(株)メディケアエコ ネット
デイサービス	10月10日	真空ヒーター更新	6,160,000円	(有)岩昭機工

〔保育園拠点区分〕

施設	完了日等	件名	金額	契約相手
保育園	6月17日	エアコン更新工事(3台)	1,001,000円	(有)岩手北菱サービス
	11月6日	防犯カメラ設置工事	1,375,000円	(株)タイズ

6 役員会等の開催状況

① 理事会

区分	開催日	議 題 等	
第1回	5月31日	決議事項	令和4年度社会福祉法人和江会事業報告及び決算について
			社会福祉法人和江会指定通所介護事業運営規程及び北上市介護予防通所介護サービス運営規程の一部改正について
			社会福祉法人和江会保育園運営規程の一部改正について
			令和5年度社会福祉法人和江会定時評議員会の招集について
			社会福祉法人和江会理事及び監事候補者の選任について
第2回	6月16日	決議事項	社会福祉法人和江会理事長の選定について
第3回	12月12日	報告事項	理事長の職務執行状況報告について
		決議事項	社会福祉法人和江会経理規程の一部改正について 令和5年度社会福祉法人和江会介護保険拠点区分補正予算(第1号)及び保育園拠点区分補正予算(第1号)について
第4回	3月26日	報告事項	理事長の職務執行状況報告について
		決議事項	社会福祉法人和江会経理規程の一部改正について
			令和6年度社会福祉法人和江会事業計画並びに令和6年度介護保険拠点区分予算及び保育園拠点区分予算について
			令和6年度社会福祉法人和江会介護保険拠点区分積立金の取崩しについて
			令和5年度社会福祉法人和江会介護保険拠点区分補正予算(第2号)及び保育園拠点区分補正予算(第2号)について

② 評議員会

区分	開催日	議 題 等	
定時	6月16日	報告事項	令和5年度社会福祉法人和江会事業計画並びに介護保険拠点区分予算及び保育園拠点区分予算について
		決議事項	令和4年度社会福祉法人和江会事業報告及び決算について 社会福祉法人和江会理事及び監事の選任について

③ 監事会

区分	開催日	監 査 事 項
第 1 回	5 月 23 日	令和 4 年度第 4 四半期末における社会福祉法人和江会事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分の予算執行状況について
		令和 4 年度社会福祉法人和江会事業報告及び決算について
第 2 回	7 月 28 日	令和 5 年度第 1 四半期末における社会福祉法人和江会事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分の予算執行状況について
第 3 回	10 月 31 日	令和 5 年度第 2 四半期末における社会福祉法人和江会事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分の予算執行状況について
第 4 回	2 月 8 日	令和 5 年度第 3 四半期末における社会福祉法人和江会事業執行状況並びに介護保険拠点区分及び保育園拠点区分の予算執行状況について

④ 役員協議会

区分	開催日	協 議 事 項
第 1 回	8 月 31 日	社会福祉法人和江会第 3 次中長期活動計画の進捗状況について

II 介護保険事業

1 特別養護老人ホームわがの里

令和5年度も新型コロナウイルスの影響で引き続き様々な制約がある中、入所者のストレスを軽減し、安全で安心な生活が維持できるように努めた。

昨年同様、施設内の感染を最小限に防ぐために感染予防を徹底した。

長期入所者の感染を防ぐことはできたが、体調をくずして通院する方や疾病が悪化する方も多くいたため、退所される方が過去最高値（24名）となった。看取り対応中の入所者がいる状況が続き、入所者のニーズを取り入れたケアを十分に提供することの難しさを痛感しながら対応にあたった。

感染者はもちろん、家族が感染しても出勤できない対策を続けていたため、職員の人手不足が続き、超過勤務での対応が増えた。さらに体調不良で休んだり、産休に入る職員もあり、職員配置や勤務時間の調整や改善が必要になった。対策として10時間夜勤から13時間夜勤へ変更して対応した。勤務時間の変更については現在も大きな問題がなく実施できており、時間外労働時間も削減できている。

コロナウイルスの感染状況により、行事については通常通りに戻すことはできず、家族が参加できる行事を実施できなかったが、面会時に普段の様子や支援状況を伝えたり、体調不良時は連絡をこまめに行うようにした。

地域の方々が参加できる「すずカフェ」を4年ぶりに開催し、参加した方々からは好評であった。今後も感染対策を講じながらも、食事やお菓子などを食べながら気軽に相談ができる企画を検討し、実施する予定である。

利用状況については、長期入所の目標稼働率98%には若干届かなかったが、新規入所25名を期間をあまり空けることなく入所してもらうように対応した。新規入所者については、入所してからも体調をくずす方が多くいた。コロナウイルス感染後に日常生活動作がかなり低下し、家族の介護負担軽減のために入所した方も多かったからである。

令和5年度は、北上市から緊急措置入所の依頼が1件あり受け入れた。

短期入所の目標は、95%だったが、実績は86.6%で目標を達成することができなかった。コロナウイルスの感染、または入院したなどでキャンセルが相次いだり、施設内で短期入所利用の方が感染し、発生している間は事業を一時制限したためである。

短期入所利用については、感染予防対策（入所日の抗原検査の実施、体調管理・検温、利用毎のチェックシートの記入、マスクの着用など）を継続している。

【利用稼働率】

〔入所者〕

満床(50床×12ヶ月)	目 標	実績 12ヶ月
18,300床	17,934床(98%)	17,906床(97.8%)

〔短期入所〕

満床(10床×12ヶ月)	目 標	実績 12ヶ月	長期空きベッドの利用
3,660床	3,477床(95%)	3,168床(86.6%)	29床

【具体的な取り組み】

① 感染症対策

ア 新型コロナウイルス…ワクチン接種

- ・6回目接種（6月） ・7回目接種（12月）

イ 肺結核…胸部レントゲン撮影（6月1日～7月7日）

- ・きたかみ駅前内科クリニックへ通院し、入所者50名実施
（肺結核なし・50名、何らかの所見あり・12名）

ウ インフルエンザ…インフルエンザワクチン接種（11月下旬）

- ・入所者49名・ロングショート利用者2名接種
（家族の同意書徴収 北上市の補助金あり）

エ 疥癬

- ・短期入所者の入所時を中心に日々皮膚の観察、衣類の加熱乾燥を常時行った。
- ・長期入所者の入所時に感染が1名あり、通院治療して回復した。他の入所者への感染はなかった。

オ ノロウイルス等の胃腸炎

- ・嘔吐や下痢の症状が見られた場合、感染症を疑い、吐物・排泄物の処理等に細心の注意を払って対応を行った。

カ その他

- ・感染症対策委員会を毎月開催し、法人の各事業所と情報を共有しながら対策を検討し、感染症予防を強化した。
- ・職員は出勤前に体調確認を行い、マスクの着用、こまめな手指消毒、定期的な換気を継続して行った。感染の可能性がある場合は出勤せずに自宅待機し、回復後に出勤することにした。
- ・また抗原検査の実施については、職員は毎週2回実施、短期入所者は毎回利用開始時、特養入所者は発熱時に実施し、感染症を施設に持ち込まないように徹底した。令和5年度1年間に施設内で実施した抗原検査では、職員が11名、短期入所利用者3名が陽性となり、他の利用者へ感染しないように徹底した感染対応を行った。（短期入所利用者3名のうち1名は入院、2名は施設内で療養した。）
- ・短期入所利用者へは、利用毎にチェックシートの記入を依頼し、朝の検温・体調確認、同居家族の体調確認を次年度も継続していく。

② 職員の育成、介護力の強化

- ・「そばに寄り添い、楽しく笑顔で、心穏やかな生活を提供します」を目標に取り組んだ。
- ・令和5年度も従来のマニュアルを職員全員で見直し、新しい手順書を作成した。見直したことにより介助をする上で注意しなければならないことを明確にし、より細かい部分まで修正・更新することができた。手順書の見直しは毎年継続することにする。

- ・ 介護技術向上に向けての専門研修については、オンライン研修などへ参加して介護ニーズの変化などについての情報を収集し、技術を学ぶことができた。今後も研修へは積極的に参加しながら、介護力・資質の向上につなげていく。

③ 認知症ケアの強化

- ・ 認知症ケアに特化した研修を終了している職員が中心となり、施設内研修を行い、職員の知識・技術の向上に取り組んだ。また、日常生活のサポートを行いながら、定期的な評価・見直しを行い、その方に合わせて支援している。今後も職員の教育強化や環境の改善により、入所者の満足度が高められるような取り組みを継続していく。

④ 余暇活動について

- ・ 令和5年度の行事等については、感染予防対策を講じながら3密を避けて行うようにしたため、北棟・南棟2グループに分けて小規模に開催することが多かった。
- ・ ボランティアの受け入れや保育園児との交流もできない状況ではあったが、その分小規模でも楽しめるようなことを企画して、入所者が日々穏やかに過ごしてもらえるように、散歩に出たり、レクリエーション、カラオケ、創作活動への参加を促した。
- ・ 次年度も、入所者個人のやりたいことの希望を調査し、個々に楽しめる企画を検討しながら開催へつなげていくことにする。

〔行事・余暇活動の実施状況〕

開催月日	行 事	実施場所		内 容
		園内	園外	
4月	花見		○	園駐車場で花見、園庭散策
4/15～5/10	施設園庭散策		○	施設園庭散策 観音様参拝、写真撮影
5月	塗り絵 輪投げ 風船バレー	○		塗り絵(鯉のぼり) 実習生と共にゲーム実施
6月	カラオケ	○		カラオケクラブ(なじみのある曲) 「北上おでんせ」の踊り
6/2	レクリエーション大会	○		シーツバレー、玉入れ
7月	七夕飾り作り	○		七夕の短冊・飾り作成
7/7	七夕会	○		短冊紹介、魚釣りゲーム、季節食 「北上おでんせ」の曲で踊る
8月	盆踊り 塗り絵	○		「北上おでんせ」の曲で踊る 塗り絵(スイカなど季節の絵)
8/5	夏を楽しむ会	○		アイスを食べる季節感を味わう 金魚すくい
9月	リハビリ体操	○		曲に合わせて体操をする
9/15	敬老会	○		受賞者写真撮影 行事食 サザエさん体操 後出しジャカゲーム
10月	作品展示会 制作・鑑賞	○		作品展示物(桜の木)を制作・鑑賞

11月	クリスマスの飾りづくり	○		花紙で飾りづくり
12月	ツリーの飾付け	○		クリスマスツリーの飾り付け
12/21・22	クリスマス会	○		歌、おやつ
1/14	新年会	○		十二支の由来読み聞かせ 長生き音頭(職員) 行事食 歌
2月	ひな祭りの飾り作り	○		飾り制作
2/2・3	豆まき会	○		豆まき、季節食
3月	リハビリ体操	○		身体を動かす
3/2・3	ひな祭り会	○		ひな祭りの歌、季節食、おやつ

*誕生会：毎月第3木曜日

*カラオケクラブ 毎週木・金曜日

⑤ 安全管理体制の強化

- ・ 入所者の安全確保と事故防止については、リスク担当の職員を配置し、「事故、ひやり・ハット」が実際に起きた場合、その時にいた職員でまず話し合い、迅速に対応した。その後書面による再発防止策を提示し、介護職員に対応策の徹底を毎日伝えた。毎月の会議でも再度検討し、全職員に対応について周知する機会をもうけた。
- ・ 令和5年度は骨折事故が1件あった。同じような事故が起こらないように意識して取り組み、引き続き入所者が安全に暮らせるように対応していく。
- ・ 身体拘束は0件継続中。入所者の人権尊重の視点からリスクマネジメント委員会で話し合い、継続して身体拘束はしないように取り組んだ。

〔入所者・利用者の事故状況〕

(単位:件)

区分	骨折	裂傷	皮下出血	転倒	ずり落ち	転落	その他	計
入所者	1	1	2	13	7	1	5	30
短期入所	0	1	0	1	2	0	1	5
計	1	2	2	14	9	1	6	35

〔ひやり・ハット〕 事例の上位

(単位:件)

1. 原因が明らかでない外傷（内出血、すり傷など）	112
2. 行動（異食）	2
3. その他	1

⑥ 施設サービス計画

- ・ 施設サービス計画書については、入所者や家族が満足できるサービスを目指し取り組んだ。令和5年度は感染症予防対策を取りながら、ご家族を含めた担当者会議の開催（15件）を行った。
- ・ 担当者会議は新規入所時、要介護度更新時期、概ね6ヶ月毎に開催し、状態変化、看取り期において随時開催している。全身状態が低下する入所者（状態変化）も多く、異常の早期発見と重度化予防の視点が不可欠だった。
- ・ 担当者会議開催回数については、長期入所191件（内新規19件）、短期入所73件（内新規29件）開催している。初回作成サービス計画作成が、短期入所利用から長期入所利用に切り替わるケースも多くあり、入所時点で状態の共有、支援の方向性と、ご家族の意向確認の場として実施した。
- ・ 短期入所の連続利用が計画される受入があり、在宅生活支援と施設利用の中間的な位置づけで支援を求められた。緊急措置利用者を1名受け入れ、それに伴いケアプランを作成し対応した。
- ・ 作成した施設サービス計画書は、遠方や来所できない家族には郵送で対応していたが、令和5年度は、面会来所時に合わせて、顔の見える関係性づくりに努め直接説明を行った。
- ・ 短期入所者のサービス計画書は、居宅支援計画に基づき作成し、施設サービス提供の確認や留意事項などの申し合わせ、状態と対応方法の共有を行った。
- ・ 各居宅介護支援事業所の介護支援専門員へ利用期間中の生活の様子等の報告書を活用し、在宅生活の支援継続、介護者の介護負担軽減の一助を行った。

⑦ 家族との連携及び情報共有

- ・ 施設サービス計画に係る目標、取り組み内容、生活の様子、健康状態、食事の様子等について、各担当職員が毎月連絡票を作成して郵送している。また、年に2回ほど季節の変わり目に衣類交換をお願いし、施設へ来てもらう機会をもうけた。担当が変更になった場合や遠方のご家族には、担当職員から生活の状況を写真付きで発送している。
- ・ 感染症対策でご家族と関わる場面が減少していたが、面会に来ていただいた際には入所者の生活の状況や本人の状態、支援方法などを説明し、本人の要望なども伝えて情報共有している。引き続き、ご家族と連携しながら、安心して生活してもらえるような取り組みを続けていく。

⑧ 看取りケア

- ・ 全身状態の変化により嘱託医から「回復の見込みがない」と診断された時は、身元引受人や家族への病状説明の場を設け、家族の意向に沿った対応を行った。
- ・ 看取り期を迎えたとき、嘱託医の指示を仰ぎながら、きめ細かな対応と緩和ケアに務め、施設で出来る限りの看取り介護を行い、22名の方を看取った。
- ・ 感染症対応をしながら、看取り期の家族の面会はできるだけ行ってもらうようにした。その際に家族の思いも共有することができたので、日々のケアへ活かすことができた。
- ・ 看取り後に家族へアンケートを依頼し、家族の率直な意見を記入してもらった。どの家族の方からも感謝の言葉を頂き、今後の職員のやりがいにつなげていくことができたので、このような取り組みは今後も継続していく。

⑨ 入所者の状況・健康管理

- 令和5年度末で、男性5名(10%)女性44名(90%)となった。
最高齢者は100歳女性、最低齢者は74歳女性となっている。
- 平均要介護度は4.12である。要介護4、5の利用者割合が85.7%(前年度93.8%)。
- また、重度認知症(日常生活に支障をきたすような症状で行動や意志疎通が困難で常に介護が必要な者：Ⅲa以上)は、44名となっている。Ⅲa以上の割合が91.6%(前年度91.7%)。

[入所者の年齢] 令和6年3月31日現在 (単位:名)

区分	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95～ 99歳	100～ 105歳	合計	平均 年齢
男	0	0	1	2	1	1	0	0	5	84.4
女	0	1	1	1	13	17	8	3	44	91.0
合計	0	1	2	3	14	18	8	3	49	90.4
4年度	0	0	2	1	13	20	11	1	48	91.2

[入所者の要介護度] 令和6年3月31日現在 (単位:名)

区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
5年度	0	0	7	29	13	49
4年度	0	0	3	26	19	48

[認知症高齢者日常生活自立度] 令和6年3月31日現在 (単位:名)

区分	自立	I	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ a	Ⅲ b	Ⅳ	M	合計
5年度	0	0	1	3	21	8	14	1	49
4年度	0	0	1	3	14	10	18	2	48

[入所者の退所・入所状況] (単位:名)

在籍者		新規入所者		入所前の居所			施設退所者		退所時の居所	
男	女	男	女	在宅	老健	施設	男	女	施設	病院
5	44	2	23	7	6	12	2	22	22	2

- 施設の入退所は、22名を施設で看取り、2名は長期入院のため退所した。
25名が新規入所した。

《健康管理》

ア バイタルチェックを行い異常の早期発見と早期対応

- 介護職員との連携をはかり、異常の早期発見に努め、体調異常時は速やかに嘱託医に報告すると共に家族へ連絡した。
- 体調不良者は観察事項等を重点的に申し送り、きめ細かな観察・対応を行った。

イ 回診及び専門病院受診の介助

- 入所者が体調不良時、本人や家族の希望を聞き嘱託医の指示を受け協力病院への通院を行った。

- ・ 嘱託医の回診…週 1 回（火曜日の午後）
 - 《入院延べ人数》 3 名（県立中部病院 2 名、北上済生会病院 1 名）
 - 《通院延べ人数》 46 名
 - 《訪問看護》 3 名（県立中部病院認定看護師）

ウ 服薬の管理

- ・ 嘱託医、調剤薬局との連携・協力により、入所者の服薬状態に合わせた処方をしてもらう事ができた。
- ・ 誤薬の防止策として、一人一人 1 回分ずつをセットし、色分け、トレイへの選別など準備の段階から数回の確認作業を励行した。

エ 褥創予防対策及び褥創処置

- ・ 毎月褥瘡対策委員会を開催し、皮膚の清潔・除圧・栄養など介護職員や栄養士と協力して褥創の予防・処置・対応を行った。県立中部病院の看護師が訪問し、指示を仰ぎ治療を継続している。
- ・ 褥瘡発症者
 - 長期入所者 2 名（1 名は軽減傾向にて退所、1 名は令和 5 年 3 月に発症し、ポケット部が深いため、認定看護師に訪問していただき対応したが軽減せず、3 月に入院切開し、退院後も処置を継続している。）

オ 経管栄養

- ・ 経管栄養者は現在 1 名。栄養注入は、常に観察を行い異常の早期発見に努め、介護職員と連携し適切に提供できた。
- ・ 胃ろうカテーテルの点検を毎日行い、病院で定期的な交換を行った。
- ・ 吸引が必要な方は随時行い、誤嚥や肺炎予防に努めている。

カ 口腔ケア

- ・ 入所者の毎食前の義歯装着の確認・食後口腔内の清拭のため歯磨き・うがい・ブラッシングを行い清潔に努めた。義歯は清潔保持のため毎食後に洗浄し保管した。
- ・ 歯科衛生士が定期的(週 1 回以上)に口腔内を点検し、状況を毎月書面で家族に報告した。
- ・ 入所者の残歯のチェックを歯科衛生士と年 1 回以上行い、新規の長期入所者は、入所の月にチェックしている。
- ・ 経管栄養者の口腔清拭・歯茎のブラッシングを行い清潔保持に努めた。
- ・ 喀痰の吸引を随時行い誤嚥の予防に努めた。
- ・ 入れ歯の不具合などがあつたときには、随時歯科医に通院した。
- ・ 口腔ケアの外部研修会に職員を参加させ、個々にスキルアップできた。

⑩ 個別リハビリ計画の実施及び評価

- ・ 入所者の重度化に伴い、「常時介護が必要な入所者」の比率が高くなっている。一部介助の入所者も全介助に近い状態である。
- ・ 個々の有する能力を可能な限り維持し、少しでも向上できるように機能訓練指導員や介護支援専門員、看護師、介護職員等と連携して、日常的な機能訓練を行っている。
- ・ 昨年度は体調をくずしたり、施設を退所する入所者が多かったが、機能訓練の面か

らも他職種と協力しながら苦痛の緩和や不安なく過ごせる等、最期まで看取れる体制を継続して取り組んだ。新規入所者については、身体状況を把握し、本人・家族の意向に添いながら現状維持に努めた。

- 入所者は各棟毎に過ごす生活スタイルにも慣れ、狭いスペースでのリハビリやレク活動も楽しんで参加していた。今後も現在の能力が維持できるように取り組んでいく。

〔入所者の日動生活動作の状況〕 令和6年3月31日現在 (単位:名)

区分	歩 行	排 泄	食 事	入 浴	着脱衣
自 立	0	0	28	0	0
一部介助	8	27	7	15	16
全介助	41	22	14	34	33
計	49	49	49	49	49

区分	起 座	起 立	体位変換	車椅子	区分	会話
自 立	20	6	19	6	普 通	24
一部介助	11	22	12	5	会話難有	14
全介助	18	21	18	28	不自由	11
計	49	49	49	39	計	49

〔機能訓練延べ利用実績〕 (単位:名)

訓練項目	訓 練 内 容	実人数	延べ人数
歩行訓練	独歩、歩行器、手引き、伝い歩き、平行棒	52	4,669
起立訓練	平行棒、トイレ時の起立、ベット車椅子間の起立	27	3,452
座位訓練	椅子上での姿勢保持、車椅子・ベッド上での座位保持	45	9,303
レク活動	集団体操、カラオケ、色塗り、読書、裁縫、制作活動等	295	17,424

⑩ 栄養状況の把握及び安全でおいしい食事の提供

ア 入所者、利用者の健康及び栄養状況を勘案した食事づくり

- 入所者毎に他職種と協働し、概ね3か月に1回栄養ケア計画の作成・見直しを行った。食事状況(個別表)を毎月見直し、それに基づいた栄養管理と食事づくりを行った。
- 虚弱者、低栄養者は、普段の食事摂取量が少ないため、高カロリー、高栄養で食べやすいものを一品提供するなど、栄養不足にならないよう対応した。

《個別対応・R6.3 現在》

- 栄養補助食品提供者…4名 ○食事時間調整者…11名
- 食材別水分粘度対応者(とろみ)…濃いとろみ 7名 薄いとろみ 6名
- 療養食対応(糖尿5名、減塩2名、腎臓2名)…9名
- 食材制限者は随時対応(納豆、乳製品、揚げ物、野菜等)

- 北上市在宅高齢者等配食サービス事業で、お弁当作り(夕食分)を週3回行った。

イ 安全でおいしい食事の提供

- 年間の行事や季節食は、それに合わせた献立を作成し、旬の食材を取り入れて食

事面からも雰囲気味わっていただくよう努めた。

- ・衛生管理マニュアルの周知徹底を図り、安全な飲み込みやすい食事の提供に努めた。
- ・今年度も、家族、地域の方から野菜、果物、米などの頂き物があり、経費の削減につながった。これからも家族、地域の方との関係を大切にしていきたい。

ウ 新型コロナウイルス感染者発生時の対応

- ・入所者の食器は、全て使い捨て食器の使用や名前シール等を作成し、円滑に業務が進むよう工夫した。また、クラスターが発生しても即対応できるよう「調理済み食品」等の確保や、マニュアルの確認を行った。

[栄養ケアマネジメント実施状況]

(単位:名)

実施月	入所合計 (1日現在)	入所者リスク変動			栄養ケア 実施合計
		低リスク	中リスク	高リスク	
4月	48	20	24	2	16
5月	50	22	25	3	17
6月	48	29	18	1	19
7月	48	29	18	1	14
8月	49	31	17	1	14
9月	48	26	19	3	19
10月	49	27	19	3	17
11月	50	29	19	2	16
12月	50	31	18	1	17
1月	50	28	20	2	16
2月	50	28	21	1	16
3月	49	29	17	3	17

※リスク判断基準

区 分	低リスク	中リスク	高リスク
体重減少率	3%未満	3~5%	5%以上
BMI	18.5~29.9	18.5%未満	
疾患			褥瘡

⑫ 地域交流・奉仕活動・防災訓練・苦情受付

- ・令和5年度における地域交流実施状況は、下記のとおりである。4年ぶりに介護の相談会と「すずカフェ」を再開した。

ア 介護実習生の受け入れ

- ・福祉専門学校等の介護現場実習

期 間	日 数	実 習 団 体 名	受入人数
11/16 ~ 12/1	20日間	北上福祉教育専門学校(1年生)	1名

イ 清掃活動

- ・年に4回施設周辺の清掃活動を計画していたが、2回行った。来年度も継続して計画し、活動回数も増やす予定である。

開催日	参加人数	容量 90ℓ袋	内 容
9/20 (月)	28	2	老人ホーム・保育園・グループホーム周辺、佐野公園までの道のりのゴミ拾い
10/20 (金)	22	2	老人ホーム・保育園・グループホーム周辺、佐野公園までの道のりのゴミ拾い

ウ 介護の相談会・すずカフェ

- ・令和5年度は3回企画している。

開催日	すずカフェ 参加人数	相談 件数	すずカフェの内容
10/28 (月)	13	0	「ご自身の歩行状態を知りましょう！」 講師：幸和産業 平田様 担当：支援センター
12/16 (土)	5	0	「紙オムツ・パット選びのポイント」 担当：特養介護課
2/17 (土)	6	2	「歯磨きで健康に！」 担当：歯科衛生士・デイサービスセンター

エ 防災訓練について

- ・施設防災訓練に関する実施状況は、防災対策委員会の開催および計画作成、通報訓練、避難訓練等を行った。また緊急時の連絡手段として、令和5年度から公式LINEを活用して連絡体制の充実を図った。
なお、地震を想定しての緊急連絡体制も整えた。

[防災訓練等実施状況]

月 日	時 間	実 施 内 容
4月14日	09:00	消防設備点検
5月26日	14:00	第1回防災対策委員会 防災委員会
7月18日	14:15	避難訓練 発電機の使い方の確認
7月19・20日	09:00	地下タンク点検
8月24日	14:00	第2回防災委員会
9月 1日	14:15	消火訓練 通報訓練(感染対策のため避難訓練は中止)
10月10日	09:00	消防設備点検

オ 苦情受付

- ・入所者等の権利侵害の未然防止や、より良い処遇改善ができて信頼関係が得られるよう、相談・苦情窓口をもうけている。面会時に家族からの要望を聞く機会をもうけた。引き続き家族との連携を密にしていくために相談しやすい環境づくりを整えていく。来年度は苦情だけでなく、「お客様の声」として意見や要望をあげてもらい、職員の意識向上や処遇改善につなげていくことにする。

[令和5年度 苦情件数] (単位:件)

区分	特養入所	短期入所
援助に関する内容	1	0
その他	0	0

⑬ 施設入所申込み待機者の状況

- 令和5年度の新規入所申し込みは78件で、3月末の待機者数は318名となった。待機者が多数のため、すぐに長期入所ができない方のために、各居宅事業所と連携しながらスムーズに短期入所を利用できるように調整した。長期入所待機者の家族についての介護負担の軽減や本人の生活意欲向上につなげることができた。

[介護度別待機者状況] (単位:名)

区分	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男	36	32	43	111
女	77	80	50	207
合計	113	112	93	318
前年度	105	107	80	292

※平成27年度から、新規申し込み受付対象が要介護3以上になっている。

[居住地別待機者状況] (単位:名)

区分	在宅等で介護	老人保健施設に入所	グループホームに入所	医療機関に入院(療養型施設含み)	その他	合計
合計	112	56	13	93	44	318
4年度	50	78	16	99	49	292

※その他 …特別養護老人ホーム入所中 3名、高齢者専用住宅入所中 15名、短期入所施設へ継続して入所中 23名、小規模多機能施設 3名

2 わがの里デイサービスセンター

令和5年度は、「利用者の自立支援・重度化防止」「安心安全に過ごすことができる」デイサービスを目標に取り組んだ。また、数値目標として、1日平均利用人数30人（要介護24.0人、総合5.0人、障害者1人以上）を目標として、事業実施した。

今年度から、利用者減少、職員体制の見直し、業務改善のため、営業日を週5日制に変更した。土曜日利用の利用者を他の曜日に変更していただき、大きな混乱なく営業を開始することができた。新規利用者の積極的な受け入れや、家族からの急な追加利用希望、振替利用等、増加に努めた。今年度新規利用の受け入れは25名（前年度15名）、体験利用11名（前年度9名）と前年度より多かったが、中止利用者が37名（施設入所13名(特養わがの里7名)、死亡者11名等）で、新規利用者よりも多く、目標数値に届かなかった。結果として、利用者実績は1日平均人数23.8人（前年度23.4人）と前年度とほぼ同じになった。要因として、利用者の短期入所の定期利用（約13名）やロングショート利用者も増え、デイサービス利用よりも、施設短期入所利用を希望する利用者、家族が増加している傾向であるため、デイサービスの需要がますます少なくなっている。そして、現在利用して頂いている利用者が90歳以上45名と高齢であり、常に体調に変化が起こりやすいという状況である。

また、コロナ感染により、デイサービス内で、R5.8月とR6.1月にクラスターが発生し1月にはデイサービス営業を4日間休業することになってしまった。

今年度は、土曜日営業休止による営業日の減少、コロナによる利用休止も利用者減少に影響している。

《具体的な取り組み》

① 積極的な体づくり・機能の維持向上

- ・ 機能の維持向上のため、レク体操、希望者にはホットパックを実施した。フロア内の「歩け歩け運動」は職員不足により付き添って歩行訓練する時間がとれず、なかなか取り組むことができなかったが、午後のレク時には音楽体操やADL維持体操など取り入れ、体を動かすように取り組んだ。
- ・ 口腔機能向上に積極的に取り組み、昼食前の口腔体操で嚥下訓練や発声練習等行い、誤嚥防止に努めた。食後には歯磨き指導を行い、感染予防、口腔衛生に努めた。定期的な歯科衛生士の観察により、口腔内の変化が見られた時には家族やケアマネへ報告し改善に繋げた。

② 安心安全な環境作り

- ・ 虐待防止の施設内研修を取り入れ、虐待防止の早期発見に努めた。
- ・ 入浴時、皮膚状態の確認を行い、内出血等見られた場合は、ケアマネへ報告した。
- ・ 虐待防止検討委員会で、情報の共有報告を行い、事例を検討した。
- ・ 常に環境の見直し、業務の改善を行い利用者が安全に過ごすことができるように検討した。

③ 感染症対策

- ・ 新型コロナウイルス感染予防の為、職員、利用者とも送迎乗車前、玄関、食事前の消毒を徹底した。そのほかに新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、職員出勤前の体温測定、利用者様利用時の朝の体温測定記入、チェックシートの記入継続、ご

家族の体調観察協力も促した。利用時の体調観察、発熱時に直ぐにお迎えの要請を促し感染防止に努めた。しかし、コロナの影響は大きく、家庭内感染や、利用者様やご家族も感染し利用を休まれたり、職員の家族が感染し出勤停止となり、少ない職員体制での営業になるなど、対応に追われた。その中で、職員は感染防止の危機感を常にもちながら、日々感染防止に取り組んだ。

④ 家族や関係機関との連携

- ・ 家族からの状態を把握し、職員間で情報を共有しながら、体調や生活機能の変化等を、家族や介護支援専門員、訪問看護へ、その都度情報提供した。介護認定更新時や状態変化の担当者会議にはできるだけ参加し、日々のミーティングでの報告や対応の検討を繰り返し行った。
- ・ 毎月、職員会議の中で、対応困難な利用者や新規利用者の支援を検討、共有した。
- ・ デイサービス動向調査の為、市内の居宅介護支援事業所へアンケートを実施。要望等を調査し、来年度の計画に取り入れる資料として参考にさせていただいた。

⑤ 職員の資質向上、介護力・看護力強化

- ・ 昨年度から、ワンフロア体制に変更し、環境整備や職員の見守り体制の変更などを行い、業務の効率化、見直しを行った。
- ・ 介護認定更新者の状態把握、心身変化や対応困難な利用者の支援の見直しや適切な介護の検討を行った。コロナの感染状況により、長時間の施設内研修はあまり取り組めず、資料の回覧のみで行うこともあった。
- ・ 研修は、リモートなどで出来る限り参加し、知識や技術の習得に努めた。また、新型コロナウイルス感染予防対策の研修、感染症のシミュレーション研修等、在介と共に施設内での研修を行い、知識・技術の習得に努め、職員の資質向上を図った。
- ・ 看護師は、一人体制になったため、連絡帳の変更などの業務効率化や、介護職員との協力体制の見直しを行い、大きな事故なく業務を遂行できた。なお利用者の急変時など、看護師の負担が大きいため、緊急時の対応など職員間の研修を取り入れていく。

⑥ 事故、ひやり・ハット

- ・ 「事故、ひやり・ハット」を検証し、利用者の方々の安全を守りながら、喜んでもらえるサービス提供を心がけ、必要な介助や支援を行った。ワンフロアになり、目が届かないところがないように休憩時間をずらすなど職員配置を見直しし、大きな事故なく利用いただいた。
- ・ 日々の業務の中で気づいた危険な場面や状況を報告し合い、大きな事故を防止できるように職員間での情報交換を行い、転倒防止や再発防止に努めた。
- ・ 令和5年度は、事故9件、ひやり・ハット2件であった。

〔事故状況〕 9件

事故内容	転倒転落	外傷出血	衣類間違い	衣類破損	その他	合計
件数	2	1	1	1	4	9

事例内容…衣類間違い、衣類破損、投薬（エンシュア）忘れ、爪切り出血 等

〔ひやり・ハット状況〕 2件

事例内容…補聴器の返却忘れ 等

⑦ 地域交流

- ・今年度もコロナ感染防止のため、行事への慰問団体の受け入れは休止し、慰問の方々と利用者との交流はできなかった。
- ・地域貢献として、昨年に引き続きわがの里職員全体で施設周辺のゴミ拾いを計画し、わがの里周辺3コースに別れて地域清掃活動を行った。
- ・今年度は、「すずカフェ」を再開し、参加者に向けて健康作りの為の体操の提案と指導をデイの職員が担当して行った。2月は歯科衛生士による「歯磨きで健康に！」の内容で講義を行い、地域の方に発信した。

⑧ 非常災害対策

- ・非常時に備え、感染対策をしながら避難訓練を実施した。また、業務継続計画（BCP）を作成した。

《行事への取り組み》

- ・活気を持ち、体を動かしてもらうため、「ミニ運動会」を実施した。はちまきをして体を動かし、応援合戦を行い、運動会気分を味わった。
- ・「敬老会」は、職員による「花笠音頭」と「ソーラン節」の体操を利用者職員と一緒にいき、盛り上がった。
- ・夏のお楽しみ会では、アイスホートを食べ、盆踊りを一緒に行い夏祭り気分を味わった。
- ・その他、お正月遊びや、節分、ひな祭り等、季節毎にお楽しみおやつを提供するなど、季節感を味わっていただいた。

〔行事实施状況〕

行事名	期 日	時 間	内 容
運 動 会	6/12～6/16	午後	敬老者表彰／記念品贈呈 職員による余興、クイズ
敬 老 会	9/13. 14. 15	14:15～15:00	敬老者表彰／記念品贈呈 職員による余興、クイズ
夏のお楽しみ会	8/7～8/11	14:30～15:00	アイスホート提供、盆踊り
お正月遊び	1月	14:30～15:30	お正月ゲーム、踊り、謡い

《利用登録者の状況》

[表1] 利用登録の変遷

(単位:名)

区 分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
男	24	22	24	18	16	13
女	101	98	99	82	67	61
合 計	125	120	123	100	88	74

[表2] 通所介護利用者数 (単位:名)

区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
介護保険	7,995	7,651	6,848	6,527	5,777	4,645
介護予防	1,845	2,021	1,812	1,791	1,317	1,304
合計	9,840	9,672	8,660	8,318	7,094	5,949

[表3] 年齢構成 令和6年3月31日現在 (単位:名)

区分	65歳未満	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95～99歳	100歳以上	合計
男	0	0	0	0	2	2	3	6	0	13
女	0	0	1	0	6	17	23	12	1	60
合計	0	0	1	0	8	19	26	18	1	73

平均年齢 91.1歳 男性 91.8歳 女性 90.5歳 (障害者1名除き)

[表4] 要介護度の状況 令和6年3月31日現在 (単位:名)

区分	要支援1 事業対象者	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	障害者	合計
男	0	2	2	3	1	4	1	0	13
女	9	8	23	9	4	6	1	1	61
合計	9	10	25	12	5	10	2	1	74

[表5] 認知症高齢者の日常生活自立度 令和6年3月31日現在 (単位:名)

区分	自立	I	II a	II b	III a	III b	IV	M	合計
男	2	4	2	2	2	1	0	0	13
女	8	12	9	12	12	3	3	1	60
合計	10	16	11	14	14	4	3	1	73

(身障者1名・除く)

[表6] 令和5年度新規・中止利用者

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規利用者	3	1	1	0	3	1	2	2	5	1	4	1	24
中止利用者	1	3	6	2	0	2	3	5	2	1	3	9	37

《身体障害者等デイサービス事業》

- ・身体障害者及び知的障害者等の自立促進、生活の改善、身体機能の維持向上等を図ることが出来るよう、健康管理、食事、入浴等の各種サービスの提供に努めた。
- ・令和5年11月から、男性1名が事業所の変更で中止になり、女性1名のみの利用になっている。

[利用状況] (単位:名)

区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
登録人数	4	3	3	3	3	1
延利用数	245	196	179	119	118	69

※ R5.11月より1名中止

《配食サービス事業》

自宅で一人暮らし、または夫婦暮らしの老人に対し夕食(1食 500円)を届け、安否の確認や会話を通じてコミュニケーションを図り、孤独感の軽減に努めた。また、食事提供以外に配食サービス事業が担っている、利用者の身辺状況の把握と関係機関との連携による在宅生活継続のための支援に努めた。

なお、食材費高騰に対し、北上市と委託料等の協議を行い、次年度に引上げ改定することとなった。

(今年度、新規3名、年間1,080食の弁当を届けた。)

[利用状況]

(単位:名)

区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
登録者数	14	13	10	9	7	8
実施日数	154	153	155	156	103	154
利用延数	1,883	1,925	1,438	1,364	837	1,080
平均	12.2	12.5	10.2	8.7	8.1	7.0

3 わがの里在宅介護支援センター

令和5年度も、地域包括支援センター開催の研修会や各研修会への参加や、内部でのケース検討会及び他事業所(JA 花巻居宅介護事業所)とのケース検討会を開催することで、介護支援専門員の資質向上に努めた。社会福祉法人としての地域資源となるよう、施設全体の取り組みの介護相談会は年3回開催できた。

支援困難なケースが増えてきているため、事業所内で随時相談をし、地域包括支援センターとの連携や保険者との情報共有を行い、解決に向けての努力をした。

利用者の契約終了は49名(過去最大人数)でした。内容は、在宅にてご逝去される方が10名、病院での逝去8名、有料老人ホームでの逝去2名、介護老人保健施設へ長期入所2名、養護老人ホーム入所1名、グループホームへの入所4名、特別養護老人ホームへの入所17名、療養型施設への入院1名、他居宅支援への移行2名、その他(非該当、サービス中止)2名だった(表6)。入所については、本人や家族の状況を把握しながら、1人暮らしや介護状況の限界を見極め、施設の情報伝え、入所申し込みを促し、入所への橋渡しをすることができた。

実績を評価すると、居宅介護支援(要介護)、予防・総合居宅介護支援(要支援)において、昨年度に比べ大幅な減少となった。具体的には介護計画総数は、居宅介護支援1,345件、前年比116件減、予防・総合居宅介護支援434件、前年比46件減となった(表2)が月148件の目標の件数は達成できた。大幅な減少となった要因としては、コロナウイルス感染後の身体状態の低下により逝去される方や、施設入所を希望する方が増えた事、又施設入所待機者が、介護老人保健施設を3ヶ月入所後にロングショート3ヶ月入所を繰り返している方も増えている事等があげられる。

《具体的な取り組み》

① 自立支援のための介護計画作成について

- ・ アセスメント(課題分析)、モニタリング(月1回以上の定期訪問)により状態把握に努め、生活ニーズの視点に基づいて、ご利用者の能力を最大限に生かせるようなケアプランの作成に努力した。
- ・ 介護事業所の介護計画を把握し、居宅サービス計画と突合しているか確認し、連携を図り、課題解決、自立支援の向上に努めた。
- ・ 居住環境を把握しご利用者、ご家族の意向を確認しながら、福祉用具業者や通所サービス(デイサービスやデイケア等)との連携を図り、暮らしやすい環境作りに努めた。

② 地域包括ケアの役割遂行について

- ・ 危機介入(虐待)と思われるケース、又将来的に虐待があり得るかもしれないケースについては、早めに地域包括支援センターへ報告し、場合によっては同行訪問の依頼をし、大きな問題に繋がらないように努力した。
- ・ 困難事例はケアマネ1人で抱え込まず、事業所内での事例検討会を実施する、又解決が困難な場合は、地域包括支援センターへ相談し、情報共有し解決策を探った

③ 居宅介護支援専門員の質向上について(特定事業所加算Ⅱの要件)

- ・ 地域包括支援センター主催の事例検討会に参加し、困難事例の解決策を検討した。
- ・ 他法人(JA居宅介護事業所)との事例検討会は、今年度は3回実施した。検討会の他情報共有も図ることができた。
- ・ 権利擁護及び成年後見人制度の研修会に参加し、必要な情報や知識を得ることができた。
- ・ 事業所内での週1回の事例検討会や勉強会(復命研修含む)を実施した。又担当ケースの進捗状況を伝え合い、研修会を通して知り得た知識や情報を共有しあった。

④ 居宅介護支援事業所の評価について

- ・ 保険者のケアプラン点検で、プランの適応は概ね良好の評価を得た。
- ・ 介護支援専門員の自己評価を年1回行った。今後は年に2回行い、自己の業務の振り返りを行う場としていきたい。
- ・ 事業所満足度調査は実施できなかった。

⑤ 社会資源としての役割について

- ・ 相談会の開催(すずカフェ)を年に3回行うことができた。
- ・ 今年度は介護支援専門員実務研修「ケアマネジメントの基礎技術に関する実習・同行訪問」はなかったが、今後もいつでも受入ができる体制作りを行っていきたい。

⑥ 安定した運営のためにについて

- ・ 居宅介護サービス計画の作成は、介護支援専門員1名につき月基準数30件は達成することができなかった。
- ・ 介護計画、予防・総合事業計画含め月平均148件の給付管理の目標は達成できた。(表2)。

《利用実績表等》

[表1] 介護度別の給付管理状況

令和6年3月31日現在

区分	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
利用者数	3	22	14	46	27	13	18	6	149
比率	2.0	14.8	9.4	30.9	18.1	8.8	12.0	4.0	100
男性	1	4	2	16	9	5	4	2	43
女性	2	18	12	30	18	8	14	4	106

[表2] 月別利用者数の推移

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業対象者	1	1	2	3	3	2	2	1	3	3	3	3	27
要支援1	23	23	23	20	21	18	19	22	21	23	24	23	260
要支援2	12	11	12	9	10	11	12	12	14	16	15	13	147
要介護1	54	52	53	54	51	52	50	47	44	44	47	46	594
要介護2	25	26	26	28	28	26	25	23	27	26	25	27	312
要介護3	18	16	16	14	14	14	14	15	15	15	12	13	176
要介護4	13	11	9	15	17	16	15	13	15	17	20	19	180
要介護5	6	7	10	7	7	7	7	6	5	7	7	7	83
計	152	147	151	150	151	146	144	139	144	151	153	151	1779

[表3] ケース検討会開催状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	3	3	3	3	4	4	4	3	4	4	3	3	41

[表4] サービス別利用者数(介護サービス)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問介護	18	18	19	21	21	23	22	21	21	23	22	21	250
通所介護	63	60	58	59	57	58	56	53	52	52	57	55	680
通所リハビリ	26	26	28	29	28	25	28	29	29	28	27	27	330
認知症通所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問看護	23	23	24	24	25	24	25	25	26	31	27	27	305
訪問入浴	1	3	3	2	2	1	2	0	1	2	1	1	19
短期(生活)	18	19	17	21	23	24	18	15	18	18	20	19	230
短期(療養)	6	7	8	6	4	4	5	9	5	4	3	3	64
福祉用具貸与	64	65	67	69	70	68	70	67	68	67	67	69	811
訪問リハビリ	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	4	37

[表 4-2] サービス別利用者数(介護予防サービス)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防訪問介護	3	4	4	4	3	2	3	3	3	3	3	2	37
総合通所サービス	23	23	24	21	22	19	20	22	22	24	23	21	264
通所リハビリ	5	5	6	6	6	7	6	7	9	10	8	9	84
予防短期入所	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
訪問リハビリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
予防訪問看護	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
予防福祉用具	13	12	13	12	13	12	12	13	15	17	16	17	165

[表 5] 特定事業所位置づけ計画数(和江会介護サービス分)

・通所介護

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
わがの里	47	45	41	41	52	43	41	39	39	38	39	36	501
他事業所	16	15	17	18	15	15	15	14	13	14	18	19	189
比率	75	75	71	70	74	74	73	74	75	73	68	66	73

・短期入所

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
わがの里	14	16	13	16	18	20	15	11	14	12	14	12	175
他事業所	74	3	4	5	5	4	3	4	4	6	6	7	55
比率	78	84	77	76	78	83	83	73	78	67	70	63	76

[表 6] 利用者の異動状況(要介護者)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設(特養)	2	0	2	3	0	2	1	2	1	0	1	3	17
施設(養護)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
施設(老健)	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
施設(療養)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
グループホーム	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	4
転居	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他居宅支援	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
死亡	1	0	4	3	2	1	3	2	0	1	2	1	20
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
計	5	0	7	8	2	4	6	5	1	2	3	6	49

4 グループホームわがの里

【令和5年度の基本方針】

- (1) 「いつも笑顔で安心して暮らせる日々を」目指す。
- (2) 新型コロナ等感染症の状況に応じた対応がとれるように体勢を整備する。
- (3) 利用者の方々の理解を深め、適切な支援が行えるよう取り組む。
- (4) 地域とのつながりを模索し、維持継続出来るよう取り組む。
- (5) 職員個々の取組みや研修を通じ、自己研鑽を図り成長できるように取り組む。
- (6) 医療関係など他事業所と連携し、支援体制の強化を図り、サービスの質を高める。

目 標	年間延べ利用者数 3,285 人 利用率 98% *定員 9 名
実 績	年間延べ利用人数 3,272 人 利用率 99.3% (前年度実績 99.4%)

* 入退所は6名、入院0名。(入院0日)

令和5年度は、8月下旬から9月上旬に結果職員3名、利用者7名が新型コロナに罹った。幸い利用者、職員ともに重症化する方はいなかった。この期間は残った職員で休日を返上し対応している。また令和5年11月頃から令和6年2月まで体調不良等で職員が1人少ない状況となり、これまた職員数が足りない日は休日に出勤してもらうことで対応し、行事については中止にするものもあった。こうした状況の中、働いて頂いた職員の皆さんには感謝しかない1年となった。

《具体的な取り組み》

- ① 「いつも笑顔で安心して暮らせる日々を」目指す。
 - ・ 職員一同、基本理念に沿って日々利用者の生活のお手伝いをしている。
 - ・ 行事の実施状況については、別添資料【表1】のとおり。
 - ・ 新型コロナ対応時等は行事も一部中止している。その他、地域との交流行事はすべて中止している。保育園児との交流は距離をとることで歌や踊りを利用者が楽しむことが出来た。
- ② 新型コロナ等感染症の状況に応じた対応がとれるように体勢を整備する。
 - ・ コロナ感染前は職員の体調観察や施設内の消毒や換気を定期的に行い感染防止に努めた。
 - ・ 陽性者が発生した後は、ゾーニングをしたり個人防護具を装着し感染拡大防止に努めた。また、職員減や業務負担減の為、食事を自炊から弁当にしたり入浴を清拭に変更した。
 - ・ このほか、夜勤者数を2名を確保することが出来ず、夜勤帯を1名で対応した。早番者が更に1時間早く出勤し夜勤者をサポートした。
- ③ 利用者の方々の理解を深め、適切な支援が行えるよう取り組む。
 - ・ 毎月第3木曜日に職員会議を行い、利用者の支援内容について話し合った。またそれらを施設サービス計画書に反映させている。

④ 地域とのつながりを模索し、維持継続出来るよう取り組む。

- ・ 運営推進会議は偶数月に6回開催する予定だったがコロナ対応や職員不足などの為開催できず、結局令和6年3月の1回のみ開催になった。
- ・ 家族連絡票は毎月15日頃に写真も添付し各家族に送付し生活の様子を報告した。
- ・ 外出外泊と面会は別添資料【表2】のとおり。新型コロナが5月に5類に移行したことや5、6月に看取り対応の方がいた為、面会の回数が増加した。

⑤ 職員個々の取組みや研修を通じ、自己研鑽を図り成長できるように取り組む。

- ・ 毎月の職員会議での研修やオンラインを含む外部研修(BCP対策セミナー、ケアマネ研修等)に参加した。
- ・ 職員会議の話し合いや日々の利用者との関わりの中で認知症の方への対応を考えながら行っている。

⑥ 医療関係など他事業所と連携し、支援体制の強化を図り、サービスの質を高める。

- ・ 訪問診療による往診(月2回)、訪問看護(毎週水曜日)、訪問歯科(月1回程度)を継続し利用者の健康管理に努めている。
- ・ 歯科衛生士に月1回口腔ケアに係る指導をいただき対応に務めている。

【その他】

- ・ 入退所の結果、利用者の年齢と介護度は別添資料【表3】【表4】のとおり。
- ・ 事故、ひやり・ハットの状況については、別添資料【表5】のとおり。

[表1] 処遇行事実施状況

4/ 2 カラオケ会	8/11 お盆供養	12/24 誕生会
4/19 お花見ドライブ(中止)	8/13 スイカ割り	12/24 クリスマスケーキ作り
4/28 お楽しみ会	8/27 花火大会	12/31 蕎麦打ち(中止)
5/ 1 開所記念行事	(延期 10/22 実施)	12/31 年越し
5/12 新緑ドライブ	9/17 敬老会	1/ 3 うどん作り
5/14 母の日行事	9/23 おはぎ作り	1/14 みずき団子作り
6/17 ピクニック	9/28 ミニ運動会(中止)	1/21 誕生会
6/18 和菓子作り	10/ 6 芋の子会	2/ 3 豆まき会
6/22・27 梅干し作り	10/12 紅葉ドライブ	2/25 誕生会
7/ 7 七夕会	10/22 花火鑑賞	3/ 3 ひなまつり会
7/17 梅ジュース作り	11/ 6 ドライブ	3/10 誕生会
7/30 誕生会	11/15 干し柿作り	3/17 おはぎ作り
	11/19 お好み焼き会	3/23 お楽しみ会

[表2] 外出外泊、面会の状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外出外泊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面会	2	19	21	12	3	5	6	9	8	6	3	9	103

[表 3] 利用者の年齢の状況（令和 6 年 3 月 31 日現在）

区分	80～84 歳	85～89 歳	90～94 歳	95～99 歳	100 歳～	合計
男	0	0	0	0	0	0
女	2	1	6	0	0	9
合計	2	1	6	0	0	9

最高 93 歳
最低 81 歳
平均 89 歳

[表 4] 利用者の介護度の状況（令和 6 年 3 月 31 日現在）

区分	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男	0	0	0	0	0	0
女	4	4	0	1	0	9
合計	4	4	0	1	0	9

平均 1.78
前年度 2.22

[表 5] 令和 5 年度の事故、ひやり・ハットの状況

区分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
事故	転倒	0	0	0	0	1	0	0	2	3	0	2	0	8
	その他	1	2	1	0	4	1	1	0	1	1	1	1	14
	計 b	1	2	1	0	5	1	1	2	4	1	3	1	22
ひハ やりと ・	転倒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	1	0	5	3	5	1	6	3	0	3	27
	計	0	0	1	0	5	3	5	1	6	3	0	3	27
合計		1	2	2	0	10	4	6	3	10	4	3	4	49

Ⅲ 保育事業〔わがの里保育園〕

心をこめたあいさつ、優しい言葉がけに関する目標は、園児・保護者に対してだけでなく職員間でも実践することを申し合わせて取り組み、中間で振り返る機会をもちながら進め、定着を図ることができた。

コロナが第5類になったことで、行事への保護者の参加の制限をなくし子どもの園生活を見る機会が増えたことで安心してもらえた。また、保護者同士や保護者と保育者との会話等のコミュニケーション機会が増え連携増進にもつながった。

11月から防犯カメラを設置したことで、不審者対応や園児の様子、保育状況を確認することができ、危険箇所の把握のほか、保育の見直しにも役だった。

いわて幼児教育センターでの幼児教育専門員訪問支援事業を活用し、乳幼児施設経験のある専門員から保育をみてもらい子どもへの援助や環境構成、保護者支援についてカンファレンスを行い、その中でアドバイスをもらうことができ、保育のレベルアップにとって、有効な機会となった。

利用状況は、4月当初は定員を上回る入所人数であったが、市外（釜石・花巻）への引越しのため転園する園児があり、在籍人数は年度末で減となった。

1 保育業務

園生活を過ごす中で養護と教育が一体となり、一人ひとりの子どもに寄り添い保育をおこなってきた。異年齢での交流を持ち、子どもが主体的に活動できる環境を工夫し構成してきたことで思考力、判断力、表現力の基礎が培えた。

[表1] 年間開園日数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
日数	24	24	26	25	26	24	25	24	24	23	23	25	293

[表2] 児童の入所状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
乳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
1～2歳児	48	47	46	47	48	48	48	47	47	46	45	45	562
3歳児	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348
4～5歳児	53	53	53	53	53	53	52	52	52	52	52	52	630
計	145	144	143	144	145	145	144	143	143	142	141	141	1,720

[表3] 児童の出席数

区分	年間在籍合計	年間出席児童数	年間保育日数	月平均保育日数	平均出席数	年間出席率
令和5年度	42,002人	31,919人	293日	24日	108人	76%

① 児童の健康管理

- 新型コロナウイルス感染症等の予防対策を徹底し、環境衛生に注意して対応した。家庭にも健康観察の徹底、検温、体調管理を依頼し、感染予防に努めた。また、日々の健康状態を丁寧に確認しながら体調の変化に注意し、流行を防ぐようにした。
- 衛生指導を月ごとに行い、感染症流行している時は繰り返し指導した。

〔新型コロナウイルス感染症罹患結果〕

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
園児	0	1	0	1	2	8	0	0	0	1	8	7	28

〔健康診断の実施状況と結果〕

内 容	実施月日	担 当 医	検 診 結 果
内 科	5/23	北上済生会病院	喘息4名 気管支炎1名 アトピー性皮膚炎1名 皮膚乾燥17名 陰嚢確認2名 両膝の動き1名
	10/3	〃	喘息4名 アトピー性皮膚炎1名 皮膚乾燥9名 思春期早発疑い
眼 科	6/19	藤田眼科医院	アレルギー性結膜炎13名 外斜視2名 内反症1名
	11/6	〃	アレルギー性結膜炎6名 外斜視1名
歯 科	5/24	畠山歯科クリニック	虫歯あり16名（治療完了者も含む） 虫歯の総数67本
	10/25	〃	虫歯あり18名（治療完了者も含む） 虫歯の総数78本

② 安全管理

ア 安全点検

- 毎週園内外の安全点検を行い、危険な箇所があればその都度すぐに修復し、安全に過ごせるようにした。

イ 安全指導

- 毎月、時期に合わせた安全指導を行い子ども達と一緒に安全な遊び方を確認した。また、安全な道路の歩き方など日頃の実践を通し、子ども達自身が自分の命を守るための約束事がしっかりと身につくように指導した。

ウ 避難訓練

- 火災や地震に対しての園内訓練の他、水害を想定した避難訓練を実施した。和賀中部分署消防署員からも通報訓練の手順や消火器の扱い方を指導してもらい毎月の訓練に活かすことができた。
- 災害時の対応として、水害訓練と合わせて引き渡し訓練を行った。引き渡しカーを使用し、確実に保護者に引き渡すことができた。

エ 事故防止

- 午睡中に呼吸や体位の観察を徹底した。タオルケットが顔にかかっているか、部屋の明るさに配慮したり異常がないか早期発見に努めた。
- 園内外の環境整備に努め、安全点検を行った。施設の整備点検、危険な場所や物がないか確認し職員間で情報を共有し、安全に過ごせるよう配慮した。なお、破損しているところは整備をした。
- 食事中の咀嚼の状況や顔色を確認し誤嚥や窒息の予防に努めた。

③ 栄養管理

- ・ 地元の食材をできるだけ取り入れながら、季節間があり色彩豊かで調和のとれた献立を工夫し、給食が子どもにとって魅力的なものであるよう食事の質の改善と、美味しい給食の提供に努めた。
- ・ 低年齢児は離乳食調査票を用いて家庭での様子を把握して食事や食具の提供をした。離乳食から幼児食に移行する際には、食品調査（特定原材料について）と同意書を家庭から提出してもらい未摂取の食材を保育園で初めて食べることをないようにした。
- ・ 子ども達が自らの感覚や体験を通して食への意識、調理する人への感謝の気持ちが育つように、子ども達と調理従事者との関わりを積極的に持つように努めた。
- ・ 年間食育指導計画に基づき、子ども達が畑で育てた野菜を給食に取り入れたり、クッキングやバイキング等を通じて食べ物への興味や関心を持てるよう配慮した。
- ・ 食育集会やクラス巡回を行った。年4回の食育集会では体と食べ物の関係に関心を持ち、食べる意欲へつながるよう絵図を用いて知らせた。
- ・ 食育アレルギーや体調不良の子に対しては個別の対応をした。食物アレルギー対応マニュアルに沿って、医師による生活管理指導表に基づき保護者と面談し、全職員が共通理解した上で除去食品の誤食などの事故防止に努めた。
- ・ 安全で安心できる食事を提供するために、大量調理衛生管理マニュアルに沿って衛生管理を行った。調理従事者の健康状態の確認及び記録を実施した。
- ・ 給与栄養目標量の割合は、対象児の体格や家庭での栄養摂取状況を把握、評価した上で、1日全体の食事に占める保育所の給食の割合を検討し、目標を設定した。
- ・ 保育園の食育が、保護者支援につながるよう園－Renraku(システム配信)を活用し保護者に食育の取り組みや、誕生会メニューの内容を知らせた。

〔給食実施の結果摂取量〕（1日の1人当たり）

区 分	未 満 児		3 歳 以 上 児	
	目 標	摂 取 量	目 標	摂 取 量
カロリー	510	507	450	467
蛋白質(g)	19.0	19.3	22.0	20.4
脂 肪(g)	14.0	16.8	17.0	18.4

※摂取量3歳以上児の数値が少ないのは、米飯を持参しているため。

④ 職員研修状況

- ・ 積極的に園外研修を受け、園内での研修にも繋げながら職員全体で共通理解を深め保育の質の向上を図った。

⑤ 行事の実施状況

月	行事名	月	行事名
4月	入園お祝い会	12月	保育利用内定面接 クリスマス誕生会
5月	園児健康診断		
6月	園児健康診断	1月	ミズキ飾り 交通安全教室
7月	七夕誕生会 防犯教室		
9月	運動会	2月	誘拐防止教室 豆まき誕生会
10月	交通安全教室 総合避難訓練 園児健康診断		
11月	生活発表会	3月	ひなまつり誕生会 お別れ会 進級お祝い会 卒園式
誕生会、避難訓練、安全指導(毎月)			
ピクニック 6月～10月		食育集会 (4回)	
英語教室 5月～2月 (10回)		衛生集会 (3回)	

2 特別保育事業

① 障がい児保育

- 対象児2名に2名の加配担当を配置した。北上市療育センターの専門職員に巡回訪問をしてもらい、助言をいただきながら知識を深めていった。担当保育者が個別に関わり生活習慣が身につくように工夫しながら発達を促すようにした。また、保護者の思いを丁寧に聞き取り、相談支援ファイルを作成することで保護者や関係機関とも子どもの育ちを共有し支援することができた。

② 延長保育

- 今年度は、年間を通じての利用が少なかった。冬期は積雪のため短期契約で利用する家庭もあった。保護者の通勤状況も踏まえて都度の契約も行った。おやつ内容に関して、アレルギー児・離乳食の園児についてはおやつ確認表を用いて複数の職員で確認し、安全な提供を行った。

〔延長保育利用状況〕

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月決契約児人数 (前年度)	5 (2)	4 (7)	4 (7)	5 (7)	5 (6)	5 (6)	3 (6)	3 (6)	4 (6)	5 (10)	6 (10)	5 (10)	54 (83)
延べ利用回数	67	55	66	52	83	58	63	53	92	59	90	83	821
緊急利用児人数	9	13	11	9	12	14	19	8	17	11	13	22	158
延べ利用回数	20	24	22	16	16	27	24	10	24	11	20	24	238

③ 病児保育（体調不良児対応型）

- ・ 発熱での利用が年間を通じて多く見られた。消化器症状の利用もあり、園児の利用人数が複数となったときはパーテーションを利用し不安を与えないように声をかけ、ゆったり過ごせるよう配慮した。また、帰宅後の過ごし方を丁寧に伝え、症状の悪化を防ぐとともに休養をとることができるよう声かけを行った。

体調不良児利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用人数	45	66	60	42	37	36	36	42	46	30	26	38	504

④ 世代間交流

- ・ 老人ホーム中庭に遊びに行った時に、言葉をかけたり手を振る等温かいやりとりを行いながら、心地よさを感じたり思いやりの心が育まれるようにした。
- ・ 敬老会にデイサービスを訪問して交流を行う計画であったが、感染症が出ていた為、子ども達が元気に遊戯したりお祝いの挨拶をしている様子をビデオに撮って贈った。
- ・ 江釣子地区敬老会、J A農業祭、北上市社会福祉大会に参加して踊りを披露するなど、積極的に地域交流を持つことができた。